



平成 26 年 5 月 20 日

全国公衆衛生関連学協会連絡協議会（全公連）
加盟団体各位

全公連ワークショップ WG 代表
日本国際保健医療学会 中村安秀

全公連ワークショップ「子どもの健康リスクを考える」

4 月の総会で議論された「全公連ワークショップ」に関するお知らせのご案内をさせていただきます。

全公連総会において、「子どもの健康リスク」に関して、シンポジウムやワークショップを行うことが決定されました。具体的には、身体の仕組み、栄養教育、自然環境・社会環境の健康リスクへの影響などについて、社会格差などの問題も視野に入れつつ、健康教育や学校教育における現在の課題や近い将来のさまざまな問題点を全公連の会員の中で議論することになりました。

1. 日時・場所

2014 年 8 月 22 日（金）13：00－17：00（4 時間）
日本学術会議 6 階（C1、C2 会議室）

2. 参加者の想定

全公連加盟の学会関係者と日本学術会議のパブリックヘルス分科会の委員の先生に絞る
各学会に呼びかけて、1 学会あたり 3 名までの参加希望者を募る
別添の申込書で、6 月 30 日（月）までに申し込んでください。
申込者ゼロの学会は、その旨をご連絡ください。

3. プログラム

（1）ワークショップ趣旨説明（10 分）

「子どもの健康リスクという考え方」（中村安秀：日本国際保健医療学会）

（2）話題提供（90 分：質疑応答を含む）

「子どもに対する健康教育のあり方」（野津有司：日本学校保健学会）

「Health Promoting School の実践」（岡田加奈子：日本健康教育学会）

休憩（20 分）



(3) ワークショップ（6グループに分ける）（90分）

1グループ7－8名

どのように、子どもに健康リスクを教えるのか？

（誰が、いつ、どこで、何を、なぜ）

(4) ワークショップ発表＋討議（40分）

4. ワークショップ結果の発表

(1) 提言の作成

ワークショップの結果を受けて、WG（ワーキング・グループ）において提言の文書をまとめる（10月くらいを目途に）

(2) 報告書の作成

今回のワークショップは、全公連の活動の一環として実施されます。

本ワークショップのテーマに関心をもつ方を、1学会あたり3名以内で推薦していただき、ワークショップを開催したいと考えています。

なお、旅費や日当は全公連では負担できませんので、その点をご了承ください。

すでに、日本学術会議が「我が国の子どもの成育環境の改善にむけて」（生育空間、生育時間、生育方法の課題と提言）という提言を行っています。

その成果を踏まえて、ワークショップ終了後に、全公連として「子どもの健康リスク」に関する提言をまとめる予定です。

「子どもの健康リスク」に関する、学会横断的かつ学際的な議論を行うことのできる貴重な機会だと考えています。

ぜひ、関心ある皆さま方の積極的なご参加を期待しています。

5. 全公連ワークショップWGメンバー

日本栄養改善学会

日本学校保健学会

日本健康教育学会

日本国際保健医療学会

日本小児歯科学会

日本性感染症学会

日本ストレス学会

日本母性衛生学会

秋葉澄伯先生、

磯 博康先生

以上